

能登空港整備事業

受賞機関 石川県土木部能登空港建設課

はじめに

能登地域は美しい自然と、豊かな伝統文化や農林水産資源に恵まれている。しかし、半島であるがゆえに、高速交通体系の整備に取り残され、地域の発展が遅れてきた。このため能登空港を建設し、能登と大都市圏を短時間で結ぶことにより、観光客の誘客、企業誘致やフライト農林水産業の振興等を促し、能登の活性化に大きく寄与するものとして地域住民より、多大な期待が寄せられている。

事業概要

事業名：能登空港整備事業

事業期間：平成10年度～14年度

設置位置：石川県輪島市、鳳至郡穴水町
及び能都町にまたがる地域

敷地面積：106ha（飛行場告示範囲）

滑走路長：長さ2,000m、幅45m

着陸帯：長さ2,120m、幅300m

就航路線：東京（開港時） 大阪・名古屋（将来）

事業費：239億円（補助事業分）

供用開始：平成15年7月7日

事業の特徴

(1) 環境対策

滑走路長から当空港は、環境アセスメントの対象外であったが、石川県要綱による調査・手続きを積極的に行った。ホクリクサンショウウオ等の希少動植物の移植、地下水・河川水等の継続調査等を行っ



能登空港全景



能登空港ターミナル地区

てきた。さらに、用地造成に伴う濁水対策として、漁業等の影響を配慮し、調整池や濁水処理装置を設置するなど、細心の注意を払った。

また、大量に発生する伐開除根材は、現地でチップ化・肥料化し、空港植生工の土壌改良材として有効利用するなど、環境対策に努めた。

(2) 用地造成

用地造成工事においては、総土工量が1,600万 m^3 で、最大盛土高55mの大規模工事であり、かつ降雪地帯のため、稼動日数が年150日しか取れなかった。また、盛土材の50%が高含水比（50～70%）土砂で、30%は発破が必要な硬岩であった。このため、土質ごとにゾーン盛土を行った。

さらに、土砂盛土箇所には排水フィルターを使用し、トラフィッカビリティーの確保と早期圧密の促進を図った。さらに、転圧回数や巻き出し厚さの工夫、最盛期の24時間施工等を行い、約2年余りで完成することができた。また、動態観測で追跡調査を行い、法面の変化もほとんどなく、残留沈下も最大で3.5cm程度で滑走路等への影響がほとんどないことが確認されている。

(3) 景観対策

能登の美しい自然環境と空港や周辺地域が調和するように、県条例で景観形成重要地域の指定を行った。また、ターミナル地区は基本計画を定め、建築物の色彩や外観の統一、広場整備や植栽計画を定め、景観に十分配慮した施設整備を行った。